

分社

Bunsha

2021年(令和3年)
12月15日 水曜日発行

《発行元》
分社理念研究所 事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田8丁目
11番21号五反田TRビル3階
TEL 03-5496-1810
FAX 03-5496-1881
<http://www.bunshagroup.com/>

アフターコロナと ニューノーマルの到来

新型コロナウイルスのワクチン接種が進み収束に向かってからもニューノーマルが社会に定着し生活スタイルやビジネス



大金電子工業(株) 本間社長

スタイルに影響を与えると考えます。

季節性インフルエンザのようにある程度コントロールできるようになってくると、すべてが元にもどらないことです。アフターコロナが到来したときには、ニューノーマル(新たな当たり前)といわれる状態の再来が確実視され、市場も企業も変化は避けられない状態になると考えられます。よって企業としては、新しい戦略が求められます。

このような事態は、地震や

風水害のように経験によってある程度予測されるものと異なり、状況に応じて手探りで対策を考えていかなければなりません。せつかく築き上げてきたサービスやビジネスモデルが、或いは医療体制や政治がコロナ禍によって一気に機能不全や大混乱に陥るなど誰が想像できたでしょうか。

しかし、そのような中でも、コロナ禍における企業や人々の行動の変化には、IT活用が大きな下支えとなりました。「会社に毎日決まった時間に行かなくても仕事ができる」「時間をかけて混雑した時間帯に満員電車で揺られて出勤しなくても問題なく業務がこなせる」

「お客様と直接会わなくても打ち合わせができる」「店頭に行かなくてもモノが買える」

：等々、コロナ禍は、今までの企業活動や生活の行動様式を見直すきっかけになったのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは、全世界で渴望されている「飲み薬」の実用化によって、安価で容易な

治療が可能となり、「普通の感染症」として扱うことで、はじめて流行の出口が見えてきたといえます。

企業としては、長期間に亘った行動制限、時差出勤や在宅勤務、テレワークやオンライン会議が定着し、コロナ前と同じように働けないということも危惧されますが、時代に即した勤務体系を模索し、社会の変化に対応していきたいと考えます。

新型コロナウイルス対策実施中

手洗い



マスク



消毒



乾燥する寒い冬の季節ですが、手洗いうがい、室内の換気にも気を付けて引き続き感染を予防しましょう。

グループ会社を訪ねて...



富士精密株式会社
FUJI SEIMITSU Co., Ltd.

山田社長に聞く



—現在の事業環境をどのように感じていますか—

富士精密㈱は富士通の通信機器事業を中心に始まった会社で、来年創業50周年を迎えます。

ここ10年位は金融関係の仕事がメインになっていて、ATMなどの板金をさせて頂くようになってからは金融関係の売上が半分くらいを占めていた時もありましたが、カード社会や銀行の統合等の影響もあってか、少しずつ減ってきています。

流通関係では大手スーパーマーケットのセルフ精算機、昨年からはコロナの影響もあってか医療系の仕事も徐々に増えてきました。また、5世代目から参入させてもらっているJRAの券売機は8世代目になり、設計から特殊な防水加工まで全てやらせてもらっています。

余談になりますが、昔は競馬新聞片手に、ずらっと並んだ馬券売り場の窓口でおぼちやんと話しながら投票券を発売してもらったのですが、券も換金も機械で自動化された今は、その頃の光景が懐かしく思います。

機械を導入することで効率化が進み、人の問題の解決にもつながると思います。また、多種多様な自動受払機が沢山出てきているので先の動向には注目していきたいと思っています。

—海外進出のきっかけは—

10年位前になります。先に出ていた㈱マグトロニクスから要請があり、5年前に出ることにしました。

富士精密タイランドは総勢20名、日本人の駐在員は1名です。社長はマグトロニクスタイランドと兼務で専社長です。

海外で作ったものというの外観からしてもどこか“使えればいいや”という感じの

ところがあつて、それを見越して作らせても、嵌合が悪いとか、きれいなやなぎやダメとか、日本はちよつとしたところでも品質にもすごくうるさいので使えないことが多いんです。アウトバウンドを計画していた企業が品質の問題で結局日本に戻すことになったという話も聞きますし、海外で作ってきたものを手直しの依頼を受けることもありま

す。今はコロナの影響で現地に行くことはなかなか出来ませんが、国内でアピールを続けていた企業から見に行きたいと言われるようになってきましたし、地場のお客様とはアウトアウトでやらせて頂いています。

—御社の特徴や強味等を教えてください—

開発から板金、塗装、組立と完成体までというのは強いと思います。お客様から注文書一つで一気通貫ですべて出来る、そこがうちの強みです。コロナ禍の影響で同業の会社も随分淘汰され、板金だけ、塗装だけといった単品のお問い合わせも多く頂くようになってきていますが、まとめて組立させて頂くことでより付加価値を求めているからとも考えています。多少価格が付いてくる場合もあるかもしれませんが、手間を考えれば

リットが出ると思っっています。品質を一番に考えて、完成品でお手伝いできる、そのような営業に力を入れています。

また、今、部品が非常に入り難くて苦労しているのですが、うちだけではとても厳しい案件にも㈱トライチームと㈱マグトロニクスの援助により三社一丸となって完成させた貴重な経験がありますので、三社で協力して売上を伸ばしていくことも目標にしています。

—コロナ禍での変化と対応—

リモートでの会議が増えてお客様と直接会って話すことが出来なくなり、営業のスタイルも全く変わりました。



グループ会社を訪ねて...



富士精密株式会社
FUJI SEIMITSU Co., Ltd.



対面の交渉に比べてWEBだと伝わりにくいこともあるので難しいですが、どんな時もうちの正当な主張はしなさいとみんなに伝えていきます。

新規開拓も非常に苦労していますが、長くお付き合いしている客先の紹介で新しいお取引先がうまれたりもしています。これには長年通り続けていたお陰だと心から感謝しています。

社内にいる時間が増えた分、人手が足りない時は現場も手伝いに行きますし、時々工場を回ってみんなに声を掛けていると、感心することや気付かされることがあつて面白いです。営業、技術、製造、何でも、みんなの聞き役になったらとも思っています。

工場見学などは可能でしょうか

いつでもお越し下さい。グループの御会社の方でしたら私でも、青柳専務でもいつでもご連絡下さい。

分社グループに望むことはありますか

若い人達同士の交流、コミュニケーションがあつてもいいんじゃないかと思えます。

私は若い頃、大陽工業㈱の八王子工場に当時の製造部長と宇都宮から材料を持ち込んで機械を借りに行ったことがあります。今はつながりも希薄になってきているかもしれませんが、あの時は大陽工業の技術の人にもいろいろお世話になりました。

㈱マグトロニクスとは、新入社員の研修でお互い行き来したりしていますが異業種の人と話す機会は非常にインパクトがあつて面白いだろうと思います。

社長の信条、座右の銘、趣味などをお聞かせください

趣味はゴルフ。

好きな言葉は「初心」です。また、若い世代への技術を継承できる組織作りにも注力していきたいです。

若手社員 インタビュー

今回は入社5年目の猪瀬来夢さんと間宮晃さんにお話を伺いました。



写真向かって右：第一製造部 猪瀬 来夢さん
左：第二製造部 間宮 晃さん

どのようなお仕事をされていますか。

間宮…塗装部門で粉体塗装を担当しています。

猪瀬…溶接部門で様々な溶接を担当しています。

会社にはどのようなイメージをお持ちですか。

間宮…入社したての頃は、工場なので少し暗いというか、殺伐としているのかなというイメージを持っていましたが、勤め始めたら先輩

がやさしく話しかけてくれる明るい職場だとわかってきました。

猪瀬…溶接の方も仕事は丁寧な感じで下されるし、アドバイスももらえるので、周りの方は親切でやさしいです。冗談も言い合ったりできる明るい職場です。

お休みの日はどんな風に過ごされていますか。趣味などありますか。

間宮…コロナで家に閉じこもっていることが多くて、外に食事にも出られなかったもので、どうしても食べたいものがある時は料理に挑戦したりもしました。

猪瀬…テニスのクラブチームに通っていて、時々子供達に教えたり、車で釣りに行ったりすることもあります。

会社に望むことなどはありますか。

間宮…最近思うのは資格を取りたいと思っていて、自分でも調べているのですが、こんな資格があると教えてもらえたら、興味があるものから挑戦してみたいと思います。

猪瀬…自分は、今持っている技能を磨いて、少しずつスキルアップして行けたらいいなと思っています。

◇お二人ともお忙しいところご協力頂き大変ありがとうございました。◇

丸忠デジタル株式会社 大陽工業株式会社と合併

**大陽工業株式会社
三島事業所MDモールド
カンパニー始動**

令和3年10月1日、丸忠デジタル(株)は大陽工業(株)と合併し、社名を新たに大陽工業(株)三島事業所MDモールドカンパニーとして始動しました。

丸忠デジタル(株)は、昭和48年に大陽工業から分社して設立、東京都大田区で創業を開始しました。両社の合併に伴い、三島事業所を訪れた大陽工業(株)酒井社長は、旧丸忠デジタルは現在(大陽工業という病院で)治療中。何にでもトライして生き残る道を捜しつつ、業績回復の目処が立った際には今一度、分社する心構えで事業運営に当たってほしい」と激励の言葉を述べられました。

**三島事業所長
MDモールドカンパニー長**



松本 誠

この度、10月1日より、大陽工業(株)三島事業所MDモールドカンパニーとしてスタートを切らせて頂きました。三島事業所は、従業員17名の小さな事業所ですが、ここで頂けたチャンスを従業員全員、一丸となって健全な事業所に建て直していく所存です。

近年、赤字を垂れ流して来た会社がどう変わるのか？ぬるま湯につかった従業員のモチベーションをどうやって向上させていくのか？従業員一人ひとりに責任の意識づけをどう植え付けていくのか？等、沢山の課題を抱えた中でのスタートとなりますが、まずはここから進む1年を従業員全員と全てを共有し、どうあがいていくかをテーマに事業所の活性化に努めていきたいと思っております。

最後になりますが、従業員全員が大陽工業の一員として安心して働ける事業所になるよう再建に向けて精一杯頑張っていきますので、分社グループの皆様のご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



**副カンパニー長
本松 一幸**

このたび、大陽工業株式会社三島事業所MDモールドカンパニー副カンパニー長に任命されました本松と申します。

このチャンスを生かし、三島事業所のみなが将来に希望が持てる職場になる様に日々努力したいと考えています。

コロナの終息後、皆様と笑って交流が出来ることを楽しみにしています。



**営業部
チーフマネージャー
佐藤 浩**

三島事業所MDモールドカンパニー営業部の佐藤浩と申します。

私は平成元年に丸忠デジタルへ入社し、約32年間お世話になりました。10月より大陽工業の一員として再出発させて頂けたこと、そしてチャンスを受けたことを感謝するとともに気持ちも新たに初心に帰り身の引き締まる思いです。

丸忠デジタルからの課題は山ほどありますが、新体制の下、業績回復の鍵となる受注不足の解消と受注内容の中身を改革して行くことを最優先に考え、今まで培って



**技術部
春藤 創**

きた経験を活かし提案型と粘り強さで成長分野を一層強化、新しい分野の開拓を目指し将来的には自社製品の開発から製造販売まで行える事業所になりたいと思っております。一目指せ！脱金型！業績回復の為に三島事業所全社員で尽力を重ねて参りますのでグループの皆様、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

MDモールドカンパニー技術部の春藤創と申します。

2021年(令和3年)10月1日から社名が丸忠デジタル株式会社から大陽工業株式会社三島事業所MDモールドカンパニーに変わったので心機一転といきたいですが、実際は、首の皮一枚つなげたという感じなので油断はできません。

私は、3次元形状をメインで設計、加工データ作成をしているのですが事業所の強みと言える程ではないので事業所の強みになれるように今まで目を向けて来なかった分野の知識などにも目を向けて新たなことにも積極的に挑戦していきたいと思えます。そして、生まれ変わった事業所と共に成長していけるよう一日一日を大切に頑張りたいと思います。



三島事業所にて酒井社長挨拶